

変幻自在の妖怪たちが、「本当に大切なもの」を語りかける!



妖怪影絵劇 ゲゲゲの鬼太郎 ～あらすじ～

怪しげなおじさんに、骨董屋に鏡を持っていくように言われたユウト。初めて行く古道具店の中にあるいろいろなものに興味深々だが、そんな中、店の隅に座っている古い人形と目が合います。ユウトは、人形となにやら話はじめるが、持ってきた鏡が突然光を放ち一瞬にして、ユウトは鏡に吸い込まれ不思議な空間に投げ出されます。そこで、出会う不思議な妖怪たちの魅力に引き込まれていくユウト。しかし、妖怪たちが欲しがっているのは人間の心。魂(心)を狙われているユウトを助けようと鬼太郎と仲間たちが立ち上がります。自分も妖怪族の一員である鬼太郎が、なぜ人間たちの味方をするのか?ユウト(人間)と鬼太郎(妖怪)の心に何かが芽生え始めます。

妖怪影絵の 魅力

動物の皮を使った影絵劇は、その表現の豊かさ、面白さからアジアを中心に広く世界に伝わっています。水牛の皮を用いたインドネシアのワヤン、トルコやギリシャでは、ラクダの皮を使ったカラギョーズなどが有名ですが、2011年ユネスコ世界無形文化遺産に登録された中国の皮影戯(ピーインシー)が、その起源ともいわれています。劇団影法師では、30年前よりこの皮影戯(ピーインシー)の公演を続けておりますが、今回この妖怪影絵「ゲゲゲの鬼太郎」の舞台では、この技法を高めた独特の影絵世界を作り上げています。

■プログラム 上演時間：80分(休憩含む)

妖怪影絵劇「ゲゲゲの鬼太郎」…50分
休憩……………10分
不思議な音のワークショップ…20分

学習発表会のヒントになる、 不思議な音の体験ワークショップ

劇中に使われる効果音。演劇の世界ではとても重要な役割を果たします。現在は本物の音もよく使いますが、本物を超える素晴らしい効果音もあります。想像力が生み出す音を皆さんに体験して頂きたいと思います。



妖怪影絵劇「ゲゲゲの鬼太郎」



※公演終了後、不思議な世界のバックステージ見学あり。(影絵の仕組みをのぞいちゃおう!)

美しい色彩

皮影戯に使用される人形は、牛皮に、細かく彫刻し、多彩な色を施した芸術的で美しい人形です。この人形を使った影絵は、従来の黒い影ではなく、息をのむような美しい色のついたカラーの影絵になります。

変幻自在

スクリーンに直接照明の光を照射し、人形を透かしだす技術や竹の棒による独特の操作方法は、上、下、右、左と、大型スクリーンの全面を動き回ることが可能で、消えたり、現れたり、変身したり、大きくも小さくもなれる。日本にはない技法がまさに変幻自在な演技を可能にします。

生きている ような動き

素材に皮を使うことによって、丈夫で且つ柔軟な表現が可能な人形ですが、人形の首、肩、肘、手首、股関節、膝、足首などを細部にいたるまで、自在に動かすことが出来る仕組みの為、その表現力の豊かさと動きの繊細さは、まるで生きているかのような演技となって、観客を魅了します。

制作にあたり

下駄の音とともにやってくる鬼太郎。日本じゅうの悪い妖怪たちから人間を守ってくれている。ただ本当に悪いのは、妖怪なのだろうか?妖怪とは何?答えの出ない事を考えさせてくれるのが、漫画「ゲゲゲの鬼太郎」の魅力でもあります。この影絵劇では、妖怪とは人間の心。妖怪の世界とは目には見えない人間の心世界。こどもたちに、それが身近にある世界であることを感じてもらい、やさしさやおそれ(畏怖)、妖怪たちが語りかける目には見えない"本当にたいせつなもの"を感じて頂ければと思います。もちろん、おなじみの妖怪キャラクターたちが、スクリーンせましと大活躍する楽しいお芝居です。妖怪影絵ワールドに、どうぞご期待ください。

●STAFF

原 作:水木 しげる
協 力:水木プロダクション
演 出:劇団影法師演出部
脚 本:さらだ たまこ
企画・制作:劇団影法師